手術室・中央材料室

前島里子

キーワード: 鏡視下手術: 器機・リネン類のディスポーザブル化: 感染管理認定看護師 (雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 66-67)

はじめに

「開院50周年記念誌」を見てみると、今から22年前の1997年には、手術室・中央材料室スタッフは看護師14名、看護補助者2名体制で、年間1,700件程度の手術が行われていたことがわかります。その年は旧南棟が完成し、最新の設備を整えた手術室が移転稼働して間もない頃であったようです。また、顕微鏡下での手術や視鏡下手術が増えてきたことや、手術に使用するリネン類が完全ディスポーザブル化されたこと、5室ある手術室にはBGMが流れて患者さんに優しい環境が整えられたことなどの記述があります(図1)。

手術室の変遷と現状

2019年現在、手術室・中央材料室は22年前に完成した旧南棟内にそのままあります。スタッフは、師長、副師長を含めた看護師9名、看護補助者3名の計12名体制をとり、年間約900件の手術に対応しています。現在は、外科、整形外科、産婦人科、耳鼻科、泌尿器科の手術を行っていますが、22年前には常勤であった麻酔科、脳外科、眼科の医師が非常勤となったことが、

手術件数の減少に少なからず影響を与えていると考えられます。

手術手技や使用する医療機器、薬品等は日々進化しています。22年前に比べ、全体の手術件数は減っていますが、鏡視下手術等の精密な機器を使用する件数は格段に増加していますし、器機やリネン類のディスポーザブル化は当然のこととなっています。また、BGM はスマートフォンからブルートゥースを利用して音楽を流す時代になりました。

中央材料室では、感染管理認定看護師や滅菌技士の 資格を有する看護師の指導、管理のもと、手術や院内 で使用する器具の滅菌業務に責任を持ってあたってい ます。

今後への展望

手術件数の減少に伴って、スタッフの人数も減り、 少ない人数ではありますが、安全で安心して手術を受 けていただけるように、万全の体制を整えて患者さん を迎えています。



図1 手術室 (新病棟建設時に移転なし、同一場所)

Present status and future perspective of the central operating room and central sterile supply department in Unnan City Hospital.

Satoko Maejima

Central operating room and central sterile supply department, Department of nursing care, Unnan City Hospital Correspondence: Satoko Maejima, Department of nursing care, Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]

Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501

E-mail: kangobu@hotaru.yoitoko.jp